



いつもの場所で最後の仕上げ



コロナ前は布絵本作りにもぎやかに開催

リーブル Livre

平成12年に結成した布絵本ボランティアサークル。指人形など小物も多数制作。拠点は図書館小川分館。代表は川口照子さん。メンバーは吉井光子さん、古方君江さん、早野新子さん(いずれも小川町)。延べ30人以上が携わる。平成25年県優良読書グループ表彰受賞。平成26年日本図書館協会から感謝状が贈られる。作品数は平成29年に100を越え、全104作を収蔵。



図書館職員、ボランティア、図書館まつり、布絵本講座に参加していただいた全ての皆さまに感謝を込めて——。

“ありがとう”

早野 新子さん

川口 照子さん

古方 君江さん

吉井 光子さん

「本」を讀む習慣が「つきますように。」
「壊れても大丈夫。使ってほしい。」
「魅力ある図書館になったらいいな。」
温かみを感じる作品一つ一つに詰まった子どもたちへの想い。この想いも次世代へバトンタッチ。ページをめくる度に新しい発見がありますように——。

「喜んでもらえることが原動力でした。達成感がありますよ。」と川口さんは胸を張る。
皆との情報交換も思い出の一つです。活動を振り返る表情は皆、晴れやか。

早野 「退職後に参加し始めて5年ほどで少し心残り。でも、雰囲気良く、ここで地域のことも学びながら、マイペーパーに活動でき本当に楽しかったです。」
古方 「自分の名を初めて入れたのは『おいでおいで』というオリジナル作品。短いお話ですが、場面を考えて工夫して。」

吉井 「目指してきたのは県立図書館で開かれた交流会で見た布絵本『花さき山』。感性を刺激するものをと考えて作った作品はどれも思い出深いです。」
川口 「福岡県古賀市の布おもちゃ作りサークルとの交流が印象に残っています。刺激を受け、メンバーの意欲が一気に上がったのを覚えていますね。」

手 想いを託して
掛けた布絵本や知育玩具は1000を超す。アイデアを出し合ったオリジナル作品は、郷土の歴史が学べたり、洞察力や思考力を高めたり。中には1頁を超す大作も。作品は全て借り

平 決心
日の昼下がり。図書館に布絵本ボランティアサークル「リーブル」の川口照子さんら4人が集まった。

「組み合わせて言葉にしたり、クイズを出したりして遊んでほしい。」と「表情が決まる目の位置は難しかな。」と「何か変だなあ。」誰が縫ったか分かるね(笑)と皆和気あいあい。月2回の集まりが楽しみで、好きなことを自由に緩やかにという姿勢が長く続けた秘訣だと話す皆さんにとって、今日は最後の集まり。今年度、20年以上続けてきた活動に幕を下ろす。

「コロナ禍での活動制限や高齢化に抗えず、解散を決心しました。今後は若い人にも積極的にボランティアに参加してもらえたらうれしいですね。」と代表の川口さんは期待を込める。

「組み合わせて言葉にしたり、クイズを出したりして遊んでほしい。」と「表情が決まる目の位置は難しかな。」と「何か変だなあ。」誰が縫ったか分かるね(笑)と皆和気あいあい。月2回の集まりが楽しみで、好きなことを自由に緩やかにという姿勢が長く続けた秘訣だと話す皆さんにとって、今日は最後の集まり。今年度、20年以上続けてきた活動に幕を下ろす。

「組み合わせて言葉にしたり、クイズを出したりして遊んでほしい。」と「表情が決まる目の位置は難しかな。」と「何か変だなあ。」誰が縫ったか分かるね(笑)と皆和気あいあい。月2回の集まりが楽しみで、好きなことを自由に緩やかにという姿勢が長く続けた秘訣だと話す皆さんにとって、今日は最後の集まり。今年度、20年以上続けてきた活動に幕を下ろす。